

新春
座談会

SUISHIN 指南役から 忠言と激励を頂く



にし しゅう
西 修



わこう たかとし
若公 崇敏



やまもと けんいち
山本 賢一



いのうえ やくろう
井上 弥九郎



いしかわ かずひで
石川 和秀
【進行役】

日本推進技術は、昭和23年（1948年）、兵庫県尼崎市内で創出し、昭和40年代以降、全国の下水道整備事業で厳しく培われ、今日、世界最高位にまでに進展した。当初、開放型刃口式で、口径600mmの鑄鉄管を軌道下6m押し込んだ技が、以後、泥水式、土圧式、泥濃式の機械掘進方式を確立し、今日、掘進延長は優に1kmを超え、自在な曲線施工をも可能とした。掘削対象地盤は、超軟弱地盤から砂礫、玉石、岩盤層まで、地上のあらゆる地層をカバーした。この世界最高位にある日本推進技術（SUISHIN）に、今、東南アジアや中東諸国などから熱い注視が寄せられている。現に、日本政府が主要な海外支援国に位置付けるインドネシアやベトナムにおいて、日本推進技術（SUISHIN）を主体としたプロジェクトが歩み出している。日本推進技術の海外進出は、夢、構想の時代から現実の時代に入ってきた。

我が国推進企業による海外での施工実績には、これまでもシンガポールや香港などで単発的に見られた。また、台湾や韓国でも多くの施工実績は残されている。しかし、今回のインドネシアやベトナムの事案のように、日本推進技術が体系立て永続的に海外へ導入される事象は、我が国の推進業界にとって初体験であり、未知の世界である。

そこで、この新春座談会では、これまで我が国の推進技術や推進業界の実態を、多少の距離を隔て、客観的かつ冷徹に注視し、かつ評価しつつ、今回の諸案件の形成に指南役として尽力頂いた4氏から、日本推進技術の海外定着に向けた今後の見通しとそれに対する適切な対応のあり方など、力強い忠言を頂くことにした。

—皆さん、2016年（平成28年・申年）、新年明けましておめでとうございます。本日は、あわただしくお忙しい中、お集まり頂き誠にありがとうございます。

昨年は、我が国の推進業界や推進技術にとって記憶に値する年となりました。国内では、「日本推進工法発祥の地記念碑」を、関係者皆様のご協力の

下、兵庫県尼崎市内の現地に建立することができました。また、海外では、インドネシア、ベトナムで日本が誇る推進技術の卓越さを実証し、現地から高い評価をいただきました。日本推進技術（SUISHIN）の海外定着化に向けた着実な足跡を残せました。このことにつきましては、本日お集まりの皆様方のご尽

力の賜物と厚く感謝申し上げますとともに、この場では、今後さらなる進展に向け、厳しくも力強いご助言を頂ければと思っております。

さて、始めに、皆様にとって昨年一年間がどの様な年であったか、公私共々の近況を含め、自己紹介をお願いいたします。まず、JICA専門家としてジャカルタに移られて一年半を過ごされた西さん、如何ですか。

西：私は、2014年9月末にインドネシアに赴任しましたが、いろいろなことがあった一年間でした。一昨年10月には新大統領が就任しました。若く豊富な人口に支えられ経済成長している国でしたので、もともとから活気はありました

出席者（敬称略）

にし しゅう
西 修：JICA長期専門家（インドネシア）（国交省出向）

わこう たかとし
若公 崇敏：JICA長期専門家（ベトナム）（国交省出向）

やまもと けんいち
山本 賢一：JICAベトナム事務所次長

いのうえ やくろう
井上 弥九郎：日本テクノ㈱技師長

いしかわ かずひで
【進行役】石川 和秀：（公社）日本推進技術協会専務理事（本誌編集委員長）



【進行役】

いしかわ かずひで
石川 和秀

(公社)日本推進技術協会専務理事
(本誌編集委員長)

が、国民人気の高い庶民派の大統領が誕生したということで、さらに活気ある新しいインドネシアの息吹きを感じました。一方で、新大統領就任に伴う省庁再編や人事異動は遅々として進まず、昨年7月の下水道担当課長の就任まで9箇月もの間、仕事が遅滞することも多く、それでも問題ないとされているところに、これもインドネシアなのだと感じました。私的には、単身赴任で来ておりますが、他の専門家や現地日本人との交流など忙しく過ごしています。

——同じく、JICA長期専門家としてハノイに赴任されて半年、若公さん、如何ですか。

若公：そうですね。このベトナムという国に魅せられて、あっという間に半年過ぎてしまった、そういう感覚です。元から海外赴任は希望していましたし、霞が関時代には色々な国に出張で行かせていただきましたが、治安面、充実した食、そして日本に対する好印象なども含めて、ベトナムは日本人にとって本当に過ごしやすい国でして、当初の任期は2年なのですが、早くも延長させてほしいとお願いしているところです(笑)。

現在は単身赴任ですが、今年3月からは家族も呼び寄せようと思っていますので、また違った角度から海外赴任生活を楽しめるのではないかと考えています。

——JICAベトナム事務所に赴任し、早、4年目を迎え、ますます、水を得た魚のごとく東奔西走(ベトナムでは「南奔北

走」かも)、八面六臂のご活躍とお聞きします、山本さん如何ですか。

山本：ベトナムでの円借款事業を全て監理していますので、本当にあっという間の一年でしたね。一昨年1月4日はハノイの新空港と日本技術による日越友好橋の合同開通式だったんですが、太田前国交大臣をお迎えするというところで暮れも正月も働き詰めで、そのまま一年過ぎたような感じです。ご指摘の通り早4年目で残り任期も少ないのに、ほとんど地方へのお出張を経験すること無く来てしまいました。

——最後になりましたが、本日お集まりの中では最年長かと思われ、井上さん、昨年は職場を変わられ、業務内容や行動範囲にも変化があったのではと思われ、如何ですか。

井上：還暦を過ぎて間もなく3年が過ぎます。コンサルタント業務に着きまして8年ですが、これまで建設工事のエンジニアリングサービスにつながるプロジェクトを発掘できておりません。経営貢献の点から身辺を見直すことは当然のことと心しておりました。ベトナム・インドネシアに求められているのは、実施体制作りや行財政制度など建設事業のプラットフォームを整備することも下水道事業経営の持続性から重要なODA業務です。時間の過ぎ行くのが矢の如しで、残された時間を、技術協力プロジェクトに専念できるように我儘を言いまして今の職場に変わりました。下水

道管路をどのように整備していくかという問いかけに対して、日本人の倫理性と中小企業の優れた技術は使って頂けると信じています。JICAの企業支援や技プロで、使って頂いております。

——さて、本日の皆様は、今でこそ、日本推進技術(SUISHIN)の良き信奉者であり、この海外定着化に向け信頼する指南役でおられますが、これまでの皆様のキャリアからは、我が国の推進技術とか推進業界とかに関し、失礼ながら、情報、知識、関心も少なく、縁遠いものであったのではないかと思います。

その当時と現在ではその印象にどのような変化がありますか。また、推進の世界を知り、興味、関心を抱き始めた切っ掛けは、いつ、どんなことだったのでしょうか。

年の功ではないですが、井上さんから如何ですか。

井上：実施設計や建設工事の経験は僅かです。従って、推進技術については門前の小僧です。施工計画の策定は無理です。下水道整備計画や管路計画は、



写真-1 ジャカルタ市内の道路状況